



レポートの生成

BAT には、レコードを効率的に管理するためのレポート機能があります。レポートを作成し、保存して、電話機、ユーザ デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードについての情報を利用できます。これらのレポートは、ファイル名を指定して保存できます。また、パブリッシュサーバ上のフォルダに格納して再表示および印刷できます。

デバイス フィールドおよび回線フィールドの一覧から項目を選択して、特定のニーズに適合するように、電話機およびユーザ デバイス プロファイルについて BAT レポートをカスタマイズできます。レポート内のフィールドの整列方法を選択することもできます。レポートは CSV ファイル形式で生成されます。ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイのレポートは固定形式であるため、カスタマイズできません。

例

電話機モデル別に、転送宛先を持つすべての電話番号の一覧が必要です。Cisco IP Phone model 7960 の Phone Report を生成して、クエリー詳細 (Device Name、Directory Number、Forward Busy Destination、Forward No Answer Destination、および Label) を選択できます。レポートフィールドを整理して、Label フィールドが Directory Number フィールドの後ろ、2 つの転送宛先番号の前に位置するように調整できます。

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機のレポートの生成

電話機および他の IP テレフォニー デバイスのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Phone Options ウィンドウで、**Generate Phones Reports** を選択して、**Next** をクリックします。Phones Reports (Step 1 of 2) ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 クエリーを指定せずにすべての電話機についてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定の電話機モデルまたは電話機アトリビュートのレポートを生成できます。

- a. **Select Phones to Query** ドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（Model や Directory Number など）を選択します。
- b. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。
- c. 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値（たとえば、リストからのモデル名または電話番号範囲）を選択するか、入力します。
- d. **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- e. 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ a. ~ d. を繰り返します。
- f. **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ a. からやり直します。

ステップ 3 **Next** をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。Phone Reports Step 2 of 2 ウィンドウが表示されて、選択したクエリーを表示します。クエリーのタイプを変更する場合は、**Back** をクリックします。

ステップ 4 Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。

- ステップ 5** Available Device Fields ドロップダウン リストボックスでデバイス項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポートリストの Selected Device Fields に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。デバイス フィールドおよび回線フィールドについては、P.11-4 の「電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート」を参照してください。
- ステップ 6** このレポート リストの Selected Device Fields 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。
- ステップ 7** Available Line Fields ドロップダウン リストボックスで回線項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの Selected Line Fields に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。
- ステップ 8** このレポート リストの Selected Line Fields 内の回線項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。



(注) レポートを生成するには、少なくとも 1 つのデバイス フィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

- ステップ 9** **Generate** をクリックして、レポートを作成します。
- ステップ 10** Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。
- 最初のウィンドウの **Status** 領域に **Report Completed** または **Report Failed** が表示されます。
- ステップ 11** このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、クエリーのタイプとレポートに正常に渡された電話機レコードの数が記録されます。また、レポートの生成に失敗した電話機レコードの数も記録されます。

ステップ 12 View Latest Report File をクリックして、このレポートの結果を表示します。クエリーのタイプが先頭に表示され、フィールド名がレポートに指定した順序でヘッダーに表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。



(注)

レポートファイルは、パブリッシャ サーバ上の C:\BatFiles\Reports\Phones に保存されます。

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート

すべての電話機および IP テレフォニー デバイスの電話機レポートを作成できます。また、次のオプションのうち 1 つに限定したレポートを作成できます。

- **Phone Model** : クラスタに設定されているモデルのリストから 1 つを選択します。
- **Device Name** : フィルタまたは正確な名前を指定します。
- **Description** : フィルタまたは正確な説明を指定します。
- **Phone Load Name** : フィルタまたは正確な名前を指定します。
- **Device Pool** : クラスタに設定されているデバイス プールのリストから 1 つを選択します。
- **Calling Search Space** : クラスタに設定されている CSS のリストから 1 つを選択します。
- **Location** : クラスタに設定されているロケーションのリストから 1 つを選択します。
- **Directory Number** : フィルタまたは正確な番号を指定します。

電話機レポート タイプを選択したら、レポートに組み込む対象のデバイスおよび回線の詳細を選択できます。

次のデバイス フィールドから選択できます。

- Model
- Device Name
- Description
- Device Pool
- Calling Search Space
- Location
- Extension Mobility
- User Hold Audio Source
- Network Hold Audio Source
- Media Resource Group List
- User Locale
- Network Locale

次の回線フィールドから選択できます。

- Directory Number
- Partition
- CSS (Line)
- User Hold Audio Source
- Network Hold Audio Source
- CSS (Forward All)
- CSS (Forward Busy External)
- CSS (Forward Busy Internal)
- CSS (Forward No Answer External)
- CSS (Forward No Answer Internal)
- CSS (Forward On Failure)
- CSS (Forward No Coverage External)
- CSS (Forward No Coverage Internal)
- Forward All Destination
- Forward Busy Destination External
- Forward Busy Destination Internal

- Forward No Answer Destination External
- Forward No Answer Destination Internal
- Forward on Failure Destination
- Forward No Coverage Destination External
- Forward No Coverage Destination Internal
- Display
- Label

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成

ダミー MAC アドレスを使用している電話機のリストを生成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Phone Options ウィンドウで、**Generate Phone Reports** を選択します。Phone Reports Step 1 of 2 ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初のドロップダウンリスト ボックスで、**Device Name** を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウンリスト ボックスで、**begins with** を選択します。
- ステップ 4** フィールドに、**BAT** と入力します。ダミー MAC アドレスを使用して追加されたすべての電話機のデバイス名は、先頭が BAT で始まります。
- ステップ 5** **Add To Query** をクリックします。「BAT」で始まるテキストの Device Name がクエリー テキストボックスに表示されます。
- ステップ 6** **Next** をクリックします。Phone Reports Step 2 of 2 が表示されます。

ステップ 7 電話機のレポートの生成手順の [ステップ 4](#) に進んで、レポートを完成します。

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザのレポートの生成

ユーザのレポートは固定形式です。クエリー オプションを指定せずにすべてのユーザのレポートを生成できます。また、限定されたクエリー オプションセットを指定できます。

ユーザのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** User Options ウィンドウで、**Generate User Reports** を選択して、**Next** をクリックします。User Reports ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。
- ステップ 3** クエリーを指定せずにすべてのユーザについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のユーザのレポートを生成できます。
- a. **Select Users Where** スクロール ボックスで、クエリー オプション (User ID、Department、First Name、Last Name) を選択します。
 - b. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、検索基準 (contains または is exactly) を選択します。
 - c. 検索フィールドボックスに、検索対象の値 (たとえば、正確なユーザ ID またはユーザの姓) を入力します。
検索フィールドボックスに複数の値を入力するには、コンマで区切ります (例: *JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ*)。
 - d. **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
 - e. **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。
誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ a. からやり直します。
- ステップ 4** **Generate** をクリックして、レポートを作成します。

- ステップ 5** Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。
- ステップ 6** 最初のウィンドウの Status 領域に Report Completed または Report Failed が表示されます。
- ステップ 7** このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、クエリーのタイプとレポートに正常に渡されたユーザ レコードの数が記録されます。また、レポートで生成に失敗したユーザ レコードの数も記録されます。
- ステップ 8** **View Latest Report File** をクリックして、このレポートの結果を表示します。クエリーのタイプが先頭に表示され、フィールド名がヘッダーに表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。

**(注)**

レポート ファイルは、パブリッシャ サーバ上の C:\BatFiles\Reports\Users に保存されます。

その他の情報

詳細については、[P.11-18 の「関連項目」](#)を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成

ユーザ デバイス プロファイルのレポートを作成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** User Device Profile Options ウィンドウで、**Generate User Device Profiles Report** を選択して、**Next** をクリックします。User Device Profiles Report Step 1 of 2 ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** クエリーを指定せずにすべてのユーザ デバイス プロファイルについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のアトリビュートを持つユーザ デバイス プロファイルのレポートを生成できます。
 - a.** **Select User Device Profiles** ドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、Model、Device Name、Description）を選択します。
 - b.** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。
 - c.** 検索フィールドまたはリストボックスで、検索するモデル名をリストから選択するか、検索する値を入力します。
 - d.** **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
 - e.** 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ **a.** ~ **d.** を繰り返します。
 - f.** **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ **a.** からやり直します。
- ステップ 3** **Include Autogenerated Device Profiles** チェックボックスをクリックして、これらのプロファイルレポートに追加します。
- ステップ 4** **Next** をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。User Device Profiles Reports Step 2 of 2 ウィンドウが表示されて、選択したクエリーを表示します。クエリーのタイプを変更する場合は、**Back** をクリックします。
- ステップ 5** Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。

- ステップ 6** Available Device Fields ドロップダウン リストボックスでデバイス項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポートリストの Selected Device Fields に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。
- ステップ 7** このレポート リストの Selected Device Fields 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。
- ステップ 8** Available Line Fields ドロップダウン リストボックスで回線項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの Selected Line Fields に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。
- ステップ 9** このレポート リストの Selected Line Fields 内の回線項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。



(注) レポートを生成するには、少なくとも 1 つのデバイス フィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

- ステップ 10** **Generate** をクリックして、レポートを作成します。
- ステップ 11** Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。
- 最初のウィンドウの Status 領域に Report Completed または Report Failed が表示されます。
- ステップ 12** このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、レポートのクエリー タイプとレポートに含まれるユーザ デバイス プロファイル レコードの数が記録されます。また、レポートの生成に失敗したユーザ デバイス プロファイル レコードの数も記録されます。

■ ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成

ステップ 13 View Latest Report File をクリックして、このレポートの結果を表示します。クエリーのタイプが先頭に表示され、フィールド名がレポートに指定した順序でヘッダーに表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。

レポート ファイルは、パブリッシャ サーバ上の
C:\BatFiles\Reports\UserDeviceProfiles に保存されます。

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルのレポート

すべてのユーザ デバイス プロファイルのレポートを作成できます。また、次のオプションのうち 1 つに限定したレポートを作成できます。

- **Model** : クラスタに設定されているモデルの一覧から 1 つを選択します。
- **Device Name** : フィルタまたは正確な名前を指定します。
- **Description** : フィルタまたは正確な説明を指定します。

レポート タイプを選択したら、レポートに組み込む対象のデバイスおよび回線の詳細を選択できます。

次のデバイス フィールドから選択できます。

- **Model**
- **Device Profile Name**
- **Description**
- **User Hold Audio Source**
- **User Locale**

次の回線フィールドから選択できます。

- **Directory Number**
- **Partition**

- CSS (Line)
- User Hold Audio Source
- Network Hold Audio Source
- CSS (Forward All)
- CSS (Forward Busy External)
- CSS (Forward Busy Internal)
- CSS (Forward No Answer External)
- CSS (Forward No Answer Internal)
- CSS (Forward on Failure)
- CSS (Forward No Coverage External)
- CSS (Forward No Coverage Internal)
- Forward All Destination
- Forward Busy Destination External
- Forward Busy Destination Internal
- Forward No Answer Destination External
- Forward No Answer Destination Internal
- Forward on Failure Destination
- Forward No Coverage Destination External
- Forward No Coverage Destination Internal
- Display
- Label

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成

VG200 ゲートウェイのレポートは固定形式です。すべての VG200 ゲートウェイの、または限定されたゲートウェイのセットのレポートを生成できます。



(注)

Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイのレポートは利用できません。

VG200 ゲートウェイのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** VG200 Options ウィンドウで、**Generate VG200 Gateway Reports** を選択して、**Next** をクリックします。VG200 Gateway Reports ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。
- ステップ 3** クエリーを指定せずにすべての VG200 ゲートウェイについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定の VG200 ゲートウェイのレポートを生成できます。
 - a.** Select VG200 Gateways ドロップダウン リストボックスで、クエリー オプション (MGCP Domain Name または Description) を選択します。
 - b.** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、検索基準の 1 つ (たとえば、contains、is exactly、is empty) を選択します。
 - c.** 検索フィールドボックスに、検索対象の値 (たとえば、正確な MGCP Domain Name、名前や説明に含まれる 1 文字) を入力します。
 - d.** **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
 - e.** 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ **a.** ~ **d.** を繰り返します。
 - f.** **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ **a.** からやり直します。

ステップ 4 **Generate** をクリックして、レポートを作成します。

ステップ 5 Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

VG200 Gateway Report ウィンドウの **Status** 領域に **Report Completed** または **Report Failed** が表示されます。

ステップ 6 このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、日付と時刻、クエリーのタイプ、およびレポートに組み込まれたレコード数が記録されます。また、レポートで生成に失敗したレコードの数も記録されます。

ステップ 7 **View Latest Report File** をクリックして、このレポートの結果を表示します。レポート名、レポートの日付と時刻、クエリーのタイプが先頭に表示されます。レポート ヘッダーにフィールド名が表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。

レポート ファイルは、パブリッシャ サーバ上の
C:\BatFiles\Reports\VG200Gateways に保存されます。

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「**関連項目**」を参照してください。

IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートの生成

Cisco IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートは固定形式です。マネージャまたはアシスタントのクエリー オプションセットを指定してレポートを生成できます。

マネージャおよびアシスタントのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Manager/Assistant Options ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。

- **Generate IPMA Manager Reports** を選択して、**Next** をクリックします。Manager Reports ウィンドウが表示されます。
- **Generate IPMA Assistant Reports** を選択して、**Next** をクリックします。Assistant Reports ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します。

ステップ 3 クエリーを指定せずにすべてのマネージャまたはアシスタントについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のマネージャまたはアシスタントのレポートを生成できます。

- a. **Select managers** (または、**Select assistants**) スクロール ボックスで、クエリー オプション (User ID、Department、First Name、Last Name) を選択します。
- b. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、検索基準 (contains または is exactly) を選択します。
- c. 検索フィールド ボックスに、検索対象の値 (たとえば、正確なユーザ ID またはユーザの姓) を入力します。
検索フィールド ボックスに複数の値を入力するには、コンマで区切ります (例: *JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ*)。
- d. **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

e. **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ a. からやり直します。

ステップ 4 Generate をクリックして、レポートを作成します。

ステップ 5 Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

最初のウィンドウの **Status** 領域に **Report Completed** または **Report Failed** が表示されます。

ステップ 6 このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、クエリーのタイプとレポートに正常に渡されたレコードの数が記録されます。また、レポートの生成に失敗したレコードの数も記録されます。

ステップ 7 View Latest Report File をクリックして、このレポートの結果を表示します。クエリーのタイプが先頭に表示され、フィールド名がヘッダーに表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。



(注)

レポート ファイルは、パブリッシュ サーバ上の
C:\BatFiles\Reports\ManagesAssistants に保存されます。

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

レポート ログ ファイルの表示

レポート トランザクションごとにログ ファイルが生成され、パブリッシャ データベース サーバ上の次の場所に格納されます。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT

View Latest Log File リンクをクリックすると、レポート トランザクションの要約と、障害の詳細が表示されます。

レポート操作のログ ファイルを表示するには、レポート ウィンドウで **View Latest Log File** リンクをクリックするか、次のロケーションに進みます。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT

ログ ファイル名は、次のような形式になっています。

Generate<item>#timestamp

ログ ファイル名のタイムスタンプ形式は、*mmddyyyyhhmmss* です。

その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [電話機のレポートの生成 \(P.11-2\)](#)
- [ユーザのレポートの生成 \(P.11-8\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 \(P.11-10\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成 \(P.11-14\)](#)
- [IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートの生成 \(P.11-16\)](#)
- [レポート ログ ファイルの表示 \(P.11-18\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.13-2\)](#)